

オホーツク海岸を巡る雑感

東京ふるさと斜里会会長 宮 武 直 樹

もう7年前になりますが、NHK知床旅情50周年記念事業（NHK、羅臼町、斜里町共催）に応募し、採用された記事の一つ。

雑誌「旅」の編集長であり、旅行作家でもある戸塚文子さんが、釧網線の列車の窓から飛び込んでくるオホーツク海と海岸砂丘に花が色鮮やかに咲き誇っているこの草原に魅せられて、「旅」に紹介し、昭和27年に、学問



小清水原生花園に自生するモロチ草

的には「海岸草原」と云う呼名を、花園をイメージする「小清水原生花園」と名付けられたそうです。以後、北海道では海岸草原は○●原生花園と呼ばれています。さて、小清水原生花園か

ら知床斜里海岸には「モロチ草」が生息しており、東京ふるさと斜里会の浦田副会長の祖父の方が、斜里でこのモロチ草から紙を製造。造幣局の学友に紙幣の用紙としての採用を提案されたそうです。造幣局は新入技官に、このモロチ草からどんな紙ができるか研究を命じていました。この技官の方が70歳になり、もう研究資料は破棄しようとしたが、その前にこんな草が本当に存在するのかとWeb検索をしたところ、私が「モロチ草をご存じの方はいらっしゃいませんか？」と尋ねていることを知り、斜里高校同窓会を通してご連絡をいただきました。



このモロチ草は、牧野日本植物図鑑、日本植物誌、繊維植物などにも記載なく、詳細は不明ですが、北海道の海岸地域に群れを成して繁茂しています。従ってモロチ草の名は土地の呼び名であろう、斜里はアイヌ語で「葦の生えているところ」と云う意味だそうです。

遠別町は北緯44度、日本海に面した日本最北の米所として、稲作・畑作また漁業、酪農を中心に食材の宝庫の町です。今、お米は農業政策でモチ米だけを作っており、10月の総会では赤飯セットにして土産として全員に差し上げ大変喜ばれております。

わがふる里えんべつ

東京遠別会事務局長 西 島 秀 雄

私は葦の一種ではないかと思っています。これを町の工芸品の一つとして研究・開発ができないものかと考えています。

「いきいきと里住夢（リズムム）あふれるえんべつ」とあり、何時までも活気あふれる私のふるさとであってほしいです。

準定住社会（？）の夢

の夢

海老澤 栄一

（大樹町出身）



日本中の都市が「超」過密と「超」過疎に二分化され始めているといっても過言ではない。

4月8日付けの朝日新聞によれば、2008年時点で日本の空き家は757万戸に達しているという。保養地にある社員向け宿泊施設も同様で、ペンペン草の生えている無人保養施設が目につく。それも「億」のつく保養地。

「過密」では人の付き合いが希薄になり、互助の精神は次第に欠落する傾向がある。一方、「過疎」では町中が親戚関係になり、私的空間はあってもないような状態が日常的に展開される。かくいう小生も地元高校卒業後、人口過密地帯で緑を食んでいる。

過密も過疎も同じ地域に長年棲むと、感謝の気持ち忘れ、単なる惰性で生きるようになる。次第に無機質化する傾向がある。ときに「異なり」を自ら求めることが必要になる。

今の地元以外に、空き家の大半が別荘であるような、もう一つ違った地元に住むという棲み方ができないであろうか。季節ごとに景色が変わり、そこでは手作りや手造りの協働作業が新鮮に感じられる。心身ともにリフレッシュできよう。それが「虫の多いところ（アイヌ語でタイキ）」であっても、二つのふるさとをもつことの贅沢さを味わうことはそれほど現実離れしてはいない。

店舗ご案内

東京駅八重洲口前

HOKKAIDO FOODIST

北海道フーディスト

www.foodist.co.jp

営業時間:あさ10時～よる8時
年中無休(年末年始を除く)

TEL.03-3275-0770

東京都中央区八重洲2丁目2-1ダイヤ八重洲口ビル1F
▲JR東京駅八重洲中央口を出て、大きな通りを渡って、右に50mほど。

